

Y26b

2009年7月の日食における太陽観察方法の啓発活動とその結果

矢動丸泰、豊増伸治、小澤友彦（紀美野町みさと天文台）

2009年7月22日、奄美地方周辺で皆既となった日食は、みさと天文台のある和歌山県紀美野町でも、51年ぶりに大きく欠ける日食（食分0.85）が見られるということで、大勢の町民の関心が高まった。

みさと天文台では、町民の皆さんに安全に楽しく日食現象を楽しんで頂くため、町内全小中学校（7校）を始め、高校や中央公民館などで、事前講習会と日食めがね作成を行う機会を設けた。また、天文台でも日食めがねを作りをする機会を設け、多くの方々にオリジナルめがねを手作りしてもらった。

こうした活動の実施以前、町内全小中学校生徒の日食観察に対する知識状況を確認するためアンケートを行った。回答数は492名である。イベント後（11月上旬）にも観察方法がどのように定着したかを把握するため事後アンケートを実施し、319名から回答を得た。

太陽を観察する適切な方法を選んでもらう質問（複数回答可）に対し、事前アンケートでは、危険な観察方法であるサングラス（45%）、下敷き（29%）、望遠鏡（19%）が上位を占めた。一方、安全な方法である遮光板（14%）や専用メガネ（5%）などは少ない結果となった。事には、サングラス（6%）や望遠鏡（4%）が大幅に減少し、専用メガネ（78%）の割合が大きく伸び、安全な観察方法が広まったことが確かめられた。

本講演では、この問いに対して、事前には6年生を中心に回答のあった遮光板（1%）が、事後ではほとんど回答されなくなっていたことなどの議論を進めるとともに、その他のアンケート結果についても紹介する。